

お船江跡

対馬の経済は 17 世紀、島を統治していた宗家が日朝貿易を独占していたころに繁栄した。長崎で香辛料や蘇木などの熱帯産品を調達して朝鮮に輸出し、朝鮮では主に生糸や綿布、薬用根などを買い付けて京都や大阪で売りさばいた。

この交流で得た利益をもとに、宗氏は城下町・厳原の南、久田川河口にお船江の船渠を建設するなどした。1663 年に完成したお船江は、人工の入り江を利用した 5 つのドックで、対馬と釜山の和館を結ぶ貿易船の修理や整備に使われた。宗家の関係者が江戸や大坂に向かう船もここで保管・整備された。満潮時には船の出入りができ、主に干潮時には修理が行われた。

お船江には 5 つの船渠のうち 4 つの石堤が残されている。